

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800582		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	日高郡新ひだか町静内旭町1丁目30番29号		
自己評価作成日	平成26年11月26日	評価結果市町村受理日	平成27年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本来の個性や力を発揮し暮らせるように、個人と時間をかけて根気よく見守り、残存能力を引き出せる関わりに努めている。スタッフは他チームの動きを見て今何をすべきかを考え、チームワークで支えることができつつある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0173800582-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 1月 21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひまわりは、運営者の認知症高齢者への深い理解と熱意が、ホームの基本姿勢として職員に深く浸透し、統一されたきめ細かなケアサービスが実践されています。利用者の気持ちを大切に、その人らしい豊かな心を受け止めながら、生活の再構築と出来る力を引出す支援に取り組んでいます。地域に溶け込んだ運営も着実に深まっており、恒例の観楓会は、家族や住民と一緒に余興や温泉を楽しむ交流の機会になっています。また協力医療機関が隣地に在り、医療面の安心度も高く、看取りケアも行っています。認知症共用型デイサービスの態勢も整えて、デイサービスの利用者がそのままホーム入居に至る場合は、移り住みによる混乱も無くスムーズな利用開始に効果を上げています。平屋造りの建物内は和室や談話室も備え、木のぬくもり感のある家庭的な住環境に配慮されています。町内の歌の会や地域の演奏会などに出掛けたり、春は桜、冬は白鳥見物と、利用者が地域や自然に親しみながらの暮らしが継続できるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念や目標を共有し、さらに毎朝の申し送り時に、個々に言葉に出してもらうことで、意識づけに取り組んでいる。	法人理念、介護理念、職員の心構えを毎日唱和し、さらに職員一人ひとりが今日の目標を発表する事で、理念の意識化を図っています。また現状の課題を明確にした年度目標を設定して、ホーム全体で統一したケアサービスの実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会の歌の会、長寿を祝う会など、様々な行事に参加しており、地域住民との交流に取り組んでいる。	職員は、ホームが地域の一員であるという共通認識を持ち、積極的に地域交流に取り組んでいます。地域の各種会合や行事で交流し、ホームの観楓会や忘年会等には地域住民を招待しています。住民からのお裾分けやボランティア協力も多くあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、日常生活の状況や地域の人々との交流を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方、ボランティア、家族の方の意見を積極的に取り入れ、ホームの生活に反映されている。	運営推進会議は、事前に案内状やチラシを配布することで家族や住民の参加に繋がり、メンバーが充実しています。報告事項以外に防災や地域高齢者福祉に関しても意見交換が行われ、共に考えながら住民と行政の橋渡しの場にもなっています。	運営推進会議議事録を作成しており、家族にはホーム便りで簡潔に報告しています。さらに個人情報に配慮しながら、外部の人が自由に閲覧できるよう掲示するなどの取組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町や関係機関との連携を通じ日常的に話し合いが出来るように、また、協力関係に取り組んでいる。	行政担当者とは、主に施設長が対応し協力関係を構築しています。町主催の地域ケア会議には毎回管理者が出席し情報交換を行っています。地域包括支援センターの依頼により、認知症サポーター養成の出前講座を協働して実施しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活が、拘束のない自由な暮らしで過ごしてもらえるように、会議等で話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。施錠は夜間のみです。	身体拘束防止関連の研修に参加し、事後研修として全職員で共有しています。会議では様々な事例を通して身体拘束の内容の理解を促しています。玄関は夜間帯のみ施錠しています。特に困難事例では、身体拘束防止委員会を開催し十分検討したうえで、最終手段として家族の同意を得て取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修等に参加し、職員の言葉や態度に日頃よりストレスを抱えないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が成年後見制度について学んでいないため、今後研修等で学ぶ機会を増やし、対応できるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人家族等へ契約内容をわかりやすく説明し、個々の立場で考え、不安や疑問に配慮し納得をえている。多くの意見や要望を出してもらえるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の意見、要望があった際はその都度話し合い、敏速な対応に努めている。多くの意見や要望を出してもらえるように配慮に努めている。家族に対してアンケート調査を実施して、その結果を介護や家族への対応に活用している。	家族の来訪時やホーム便り、個人便りなどで詳細な報告をしながら対話を重視した関係作りをしています。家族からの協力も良好で、利用者を一緒に支える関係が築かれています。不定期ですが無記名のアンケート調査で意見や要望を聴取して、改善や新たな取り組みに反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案が発言できるように努めているが、職員の意欲向上への繋がりが不十分である。	管理者は、普段から職員の意見や提案を良く聞くように努めています。行事やアクティビティなど職員の提案を活かしてケアサービスの幅を広げています。新職員にはホームの方針を理解して貰いながら意見を引出す関わりを工夫しています。勤務時間や研修参加などは柔軟に調整して働きやすい職場環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう、勤務時間の変更や職場環境の整備に努め個人面談を増やし、働きやすい対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し知識や技術を身につけることで、実践に繋げるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合を通じ、情報交換、他事業所と連携を取り組めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み、入居前にホームに来ていただき事前に要望を聞くことで本人の状況を把握し、関係性を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が希望していることを聞き、具体的に説明することで安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするケアが何かを見極め、早くホームに馴染み不安が減り、心穏やかに過ごせるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来るかどうかの見極めを重視し、時間をかけて出来ることを見つけ、根気よく見守ることができるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の暮らしぶりを聞くなど一緒に現在の利用者を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内のイベントには積極的に参加し、知人に会える場を作るよう努めている。知人が面会に来られたり、家族と一緒に外出されたり、スタッフと買い物に行くなど、関係を継続する支援に努めている。	家族や知人の来訪時には、職員は快く歓迎して気軽に訪問しやすい雰囲気です。利用者の希望する買い物や地域の集まり、美容室には職員が付き添っています。利用者が長年通っている美容室では、後日好みの雑誌を届けてくれる事もあり、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	動ける方が動けない方の食器を下げてください、移動時など声を掛け合ったりされている。耳の遠い方にはスタッフが会話の手助けをしたり、歌番組などはみんなで見て歌ったりし、一緒に楽しめる場を作るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	よく電話をかけてこられる利用者さんのご家族が、利用者さんが亡くなった後も悲しみから抜け出せず、スタッフに度々電話をかけていられたので、悲しみが和らぐような声掛けや対応に努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人コミュニケーションをとり、状態像に応じた希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人の視点に立って取り組んでいる。	職員は、利用者の気持ちを大切に寄り添うことを心掛けています。言葉や会話などから意向の把握が難しい場合は、今までのケア経験や生活歴をひもとき本人の気持ちを察しながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を入居時にファイリングしてあり、日常の会話等で知り、今後の希望を知ることに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はスタッフ間で知ることが出来るよう記録に残し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、職員会議で介護計画と現状の把握、モニタリングを行っている。	介護計画は利用者、家族に意向を聞き、医療面での指導も得て作成しています。計画作成の流れが明確であり、毎月モニタリングで計画と利用者の現状、さらに満足感かどうかを検討しています。3ヵ月毎にモニタリングを一覧にまとめ、担当職員の評価を基に全職員で協議し計画の作成に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や工夫したことを記録し、他スタッフへ伝えることで、より良いケアが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望により自宅に行かれる時にフォローしている。入浴を拒否している入所者が、入りたい時に入浴出来るように対応する等臨機応変に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店へ買い物に行ったり、町内会の行事に参加することで顔なじみが出来、地域住民との交流が出来るよう心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入所後は事業所の提携病院へ受診し、2週に1度の往診で体調の状態を報告している。ご家族の希望で他医療機関へ受診する際はかかりつけ医に報告し、適切な医療を受けられるよう努めている。	利用者全員が、ホームに隣接する協力医療機関を主治医としており、隔週で往診診療の他、訪問看護体制も整っています。他の医療機関を受診する場合も、概ねホームで通院を支援しています。受診結果は家族に知らせて共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ日々の状況を的確に伝え、普段から関係を密にアドバイスを受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して本人に関する情報の提供を行い、短期間に治療ができ、スムーズに退院できるように積極的に務めている。利用者さんを見舞い元気づけている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し入居時、面会時に体調に合わせ、終末期の対応の確認をしている。家族、医療関係者と連携を図り、終末期を支えるチームケアの実践に努めている。平成26年3月に看取りを行っている。	契約時を始め段階的に利用者や家族、医療関係者とケア方針を共有しています。状態悪化時には以前交わした同意情報を確認しながら家族の心情を理解し、利用者が望む終末期を支援しています。職員は看取りの経験から多くの学びを得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜の避難訓練を地域の協力のもと行っている。職員全員が訓練に参加し、誘導やとっさの動きを身につける確認をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等の訓練は年2回消防職員の協力のもと昼夜の想定で地域の人々の協力で実施している。水害時は近くの病院の高いところへ避難できるように日頃から話し合いができています。	今年度は、消防署の協力の下で、4月に日中帯の様々な場面想定、7月には夜間想定の実践を実施しています。地域住民の参加も得られています。災害状況に応じた避難場所を確保しています。食料や暖房機などの備蓄品の準備をしています。	地震や津波等について図上での検討を行っていますが、更に当地で考えられる火災以外の様々な災害（地震や津波、停電、断水等）を想定して、非常時や悪条件の中でも職員が冷静に対応できるよう実践的な訓練等を期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人間性を大切に、尊敬の思いを込めて対応するよう、また、言葉かけにも過度にならないよう気を付け、端的に分かりやすく相手を思いやる気持ちで対応するよう努めている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、個性や生活背景を理解してわかり易い言葉使いを意識し、本人の気持ちに寄り添った温かな対応を心掛けています。個人記録等は事務室で適切に管理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉や意思、残存能力を引き出せる日常生活での環境づくりをし、本人の思いや願いを表したときに状況を把握し自己決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人自立した生活の中で、生きがいを持って暮らせるよう趣味や作業等、好みの生活スタイルを取り入れ、個人の希望に沿って過ごして頂けるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が選んで装うことを尊重し、出来ない所を手助けしている。行事や外出の際は化粧を勧めて、いつもよりおしゃれをするよう励ましている。定期的に美容師さんに出張してもらい、ヘアスタイルを整えてもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は利用者と職員と一緒に座り、一緒に食事を摂る。その方によっては、刻み食にすることもある。盛り付けや片づけもしていただいている。	調理専門職員による彩り豊かでバランス良い食事を提供しています。利用者の嗜好や嚥下状態にも配慮しています。年中行事では特別料理、誕生日は希望の献立を用意しています。お裾分けや収穫野菜なども利用して賑やかな食卓を皆で楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理専門スタッフがあり、栄養バランスを考えた献立で提供されている。刻み食やミキサー食も本来の味を損なわない仕方で供し食べる楽しみを大切にしている。水分摂取状況は日報に記録され、必要量が摂れているかどの職員にもわかるようになっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、就寝時、起床時に口腔内をきれいに洗うよう促している。ご自分で出来ない方は職員が手助けをしている。定期的に歯科医師から歯石除去してもらっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員が布パンツを使用している。夜間は2名のみオムツを使用する。時間を見てトイレの声掛けを行い、うまくトイレで排泄できるように努めている。	個別の介護記録に排泄状況を記録し、声掛け誘導や介助が必要な方は、羞恥心に配慮した対応をしています。日中は利用者全員がパットを使用して布パンツで過ごしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を十分に行い、体操や散歩など体を動かす時間を設けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思や体調を考慮し、良いタイミングで無理なく入浴できるよう支援している。	毎日入浴の準備をしており、週2~3回夕方の時間で入浴を支援しています。拒む場合は、入浴できそうな様子を逃さず午前中や夜間入浴も対応して清潔保持に努めています。明るい浴室で、利用者がゆっくりと湯船に浸かれるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ストレスのない環境で安心して眠れるよう、静けさや寝具の清潔、温かさに留意している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬の情報をよく読んで理解している。体調の変化や、経過はきちんと記録している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1週間の中にレクリエーションの日、歌の会がある。散歩や外出もあり各自が楽しい日を持っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑で野菜の収穫をしたり、花見や演奏会、温泉に行くなどの行事がある。歌が好きな方は町内会の歌の会に参加するなど、本人の希望に添えるよう努めている。	季節の良い時期は、散歩や買い物に行ったり、広いバルコニーでゆったりと日光浴をしています。ホームや近隣宅の菜園での野菜の収穫も楽しみの一つです。おやつレクリエーションの夕食会や花見、ドライブ、歌の会やコンサートなど戸外に出ており、また各種イベントにも積極的に出掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	たとえ管理できなくても持っていないと不安になる方もいて、少額を財布に入れて持っている。時折出して確かめている。本人が安心できるのは良いことであり、紛失しないよう職員は置き場所の確認をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話をしたり、職員が替って内容を伝えたりしている。手紙を書く方もいる。プライバシーに配慮しながらも継続できるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が元々行っていた家事を引き続き行うよう日々の生活の中に取り入れている。雛飾りや七夕飾りのような行事を、利用者と共にすることで季節感を味わっていただいている。	平屋造りの建物内は、木が多用されており、壁には絵画や記念写真、手作りの作品が掲示されており、温かみと落ち着いた雰囲気となっています。全体に開放感があり、リビングのソファスペースもゆったりとしています。和室や談話室は、琴演奏や利用者の午睡場所、談笑の場として活用されています。廊下の奥にもソファが置かれており、利用者はそれぞれの過ごし易い場所で自由に過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さな和室があるし、テーブル席やソファの配置により、少人数で過ごしたり、一人で過ごすスペースがある。暖かい時期はバルコニーのテーブル席もある。皆と離れて一人で過ごすことも大切と思っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた好みの家具、小物、家族の写真などを置き、心が落ち着くような環境作りを心がけている。	入り口には写真を添えた表札で、わかり易い配慮がされています。各居室はその人らしい設えで、個性や状態に応じて安心して過ごせるように工夫しています。本人の作品も飾られていて趣味や楽しみ事が継続できるように支援しています。清掃や整理整頓にも配慮して、利用者が落ち着ける環境作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が出来そうなことは必要以上に手を出さず見守り、自分でやってもらえるよう心掛けている。また、自分だけで出来るように環境を整えるよう努めている。			